

新年のご挨拶

(令和 8 年 一般社団法人情報サービス産業協会 新年賀詞交換会より)

会長挨拶

一般社団法人 情報サービス産業協会
会 長 福永 哲弥

明けましておめでとうございます。新年のご挨拶を兼ね、JISA としての今年の抱負を少しお話しさせていただきたいと思えます。

AI 技術の驚異的な進化を受け、私たちは今、全く新しいデジタルの時代を迎えています。この先端デジタル技術の革新は、私たちの知のフロンティアを広く押し広げ、私たちの社会をこれまでにはない非連続な形で発展させる、そういう力を秘めていると思います。近い将来、「AI ネイティブ」なデジタル社会が確実に到来いたします。そこでは、フィジカル AI を含む AI の社会実装・利活用が進展し、データの知的資本化が加速されると思います。それが社会全体の生産力を拡大し、新たな社会価値を生み出し、そして私たちの経済活動や社会生活のイノベーションや変革の大きな原動力・推進力となると考えます。

一方で、この新しい時代は、技術の革新的進化に先導されるが故に、その行く末が不明確であります。加えて、年初来の出来事を見ていると、崩壊しかけているといっても良いくらいの国際秩序を含め社会経済情勢の不安定化もあり、まさに「不確定性」の時代でもあります。私たちデジタル人材や企業は、こういう時代だからこそ、自ら向かう方向を見定め、主体的かつ能動的に活動することが必要だと思えます。しかし、そうはいっても、具体的にどう動くべきか、どう経営のかじを切るべきか逡巡・躊躇される局面も皆様には多いのではと思います。

JISA では、「人が輝く社会」、すなわち人が思う存分持てる能力を発揮できる社会を創ることをビジョンとして近年掲げてまいりました。一昨年・昨年と生成 AI 技術の社会的活用に向けた提言やアクションプランも発出してきております。そして今年、この不確実な時代環境に立ち向かうための、やや大仰な言い方ですが「羅針盤」となり得るものをお示しできたらと思っております。具体的には、私たちの産業・事業のパーパスや存在意義、そして個人や企業の行動指針等々、これらを改めて定義し、皆様に提示することが出来ればと考えております。その上で私たちは、デジタル・IT 技術の担い手



として、先端技術の革新・実装をもって社会基盤を広く深く支え、同時に新しい社会価値を創り出し、能動的に社会の変革を促してまいりたいと考えます。その為に技術力のみならず人間力醸成を含む、我々が「IT アスリート」と呼ぶ高度デジタル人材の育成や、創り出す価値の定量化基準の追求を含む、「価値創造型事業モデル」への我々の事業モデルの転換に、昨年引き続き全力で JISA として取り組む所存であります。

また、一見万能のように見える AI 技術についても、社会的にいざ実装し活用することを考えた時に、限界や課題が一定のレベルではっきりとしてきております。これらの先端デジタル技術の社会的利活用にかかる私たちの知見を社会に還元しながら、デジタル社会の発展に一定の方向感を差し示すことも含め、新しいデジタル社会の創造に向けて、産業として精一杯の努力をしてまいりたい、その為の産官学連携、情報連携の結節点として、JISA 活動を推進してまいりたいと考える次第であります。

さて、本日は、公務ご多忙の中、越智俊之経済産業大臣政務官をはじめ、多数のご来賓の方々にお出でいただいております。心より御礼申し上げます。また、全国からたくさんの JISA 会員企業の皆様方にもお越しいただいております。ご来場、心より御礼申し上げます。

只今申し上げた JISA の活動は、言うまでもありませんけれども、私たちの産業や JISA 単独で成し遂げられるものではありません。政官界・学会はもとより、他の産業界の皆様、ここに集うすべての皆様とご一緒に、この新年を、人が輝く新しいデジタル社会の創造に向けた、丙午の年にふさわしい、躍動する一年としてまいりたい、皆様とご一緒にこの飛躍の年のスタートを切りたいと思います。

本日はご参集いただき、誠にありがとうございました。JISA 活動にかかる旧年中の多大なご協力に心からの感謝を申し上げるとともに、今後の変わらぬ皆様方のご支援を切にお願い申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。本年も何卒宜しくお願い申し上げます。

来賓挨拶

経済産業大臣政務官

越智 俊之

新年あけましておめでとうございます。経済産業政務官の越智俊之です。本日は情報サービス産業協会の賀詞交歓会にお招きいただき、誠にありがとうございます。

世界では、米国の関税措置や、米中欧をはじめ各国による自国優先の大規模な産業政策の展開など、自由主義経済に代わる新たな国際秩序が生まれようとしています。国内に目を向けると、賃上げや国内投資が約30年ぶりの高水準となり、名目GDPも600兆円の大台を超えるなど、日本経済に明るい兆しが現れています。



一方で、物価高の影響により、家計や企業を取り巻く環境は依然として厳しく、決して楽観視できる状況ではありません。こうした中で、我が国に必要なのは、単なるコスト削減や短期的な需要喚起ではなく、GXやDXを通じて産業構造そのものを高度化し、付加価値と生産性を同時に高めていく成長投資です。今年も、官民総力をあげて、成長型経済の実現に取り組んでまいりましょう。

我が国は人口減少や少子高齢化という構造的課題に直面しています。労働力人口の縮小は、生産能力の低下を通じて供給面に制約をもたらします。このような課題を打破する新たな成長のエンジンこそ生成AIです。

去年は、計算資源を効率的に活用する新たな生成AIの登場や、複数の作業を自律的にこなすようになるエージェント化、文章だけでなく画像や音声など様々な情報を扱えるマルチモーダル化が進みました。さらに、工場やロボットなど、現実の世界での活用も進むなど、目覚ましい進化を遂げました。生成AIは、既に現実の選択肢として定着しつつあり、産業や社会の生産性を根本から変革する段階に入っております。

こうした生成AIの進展を我が国の成長につなげるべく、経済産業省ではこれまで、「GENIAC(ジーニアック)」プログラムを通じたAI開発力の強化や、計算資源の国内整備等を進めてきたところです。今後、AI開発力の更なる強化や社会実装の促進に向けて、日本が強みを持つ現場データの活用を促し、国際競争力のあるAIの開発・提供を促進してまいります。その際、多様な種類のデータに対応した基盤モデルを開発することで、高い品質のデータを安心・安全に活用する環境を整備し、AIロボット等の開発を推進してまいります。

また、AIの普及に伴うリスクに適切に対応していくため、その手法に関する国内外のハブとして設立されたAISI(エイシー)の抜本的強化に貢献すべく、研究開発を推進していきます。さらに、DX／AI時代に必要な個人のスキル情報の可視化から、学び直しの支援、国家試験の運営などを通じて、デジタル人材育成を加速してまいります。

高市内閣が掲げる成長戦略において、「AI・半導体」は戦略分野の 1 つ目に位置づけられており、今後、政府をあげて、設備投資や研究開発等の官民の積極的な投資を引き出していく方針です。今後の経済社会のイノベーションの核であり、変化の激しいAIに対し、不断かつ迅速に対応策を検討し、実行してまいります。皆様とも引き続き連携させていただければ幸いです。

これまでも情報サービス産業協会におかれましては、様々なデジタル技術を社会実装することを通じて、我が国のDXを牽引されてきました。特にAI時代において、AIを現場に根付かせ、価値創出につなげていく上では、実装を担う人材の存在が不可欠です。貴協会が、そのような実装の担い手づくりを含めデジタル技術の社会実装に向け、各方面でリーダーシップを発揮されることを期待しております。

最後になりますが、本年が、情報サービス産業に関わる皆様にとって、益々の繁栄の年となることを心から祈念申し上げまして、私の挨拶とさせていただきます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。